

いけだせんせい れんしよだいだいとうりよう
「池田先生とゴルバチョフソ連初代大統領」

1 枚目／けんかをしに来ました！ (6枚目の絵の裏に貼る)

1990年7月27日。ソ連のクレムリン宮殿でミハイル・ゴルバチョフ ソ連初代大統領と池田先生の初めての会見が行われました。会見の冒頭、池田先生は呼びかけました。

「きょうは、大統領と喧嘩をしに来ました！火花を散らしながら率直に話し合しましょう。人類のため、日ソのために」と。その瞬間、大統領の顔はパッと明るくなり「私も率直な話し合いが好きです」と答えました。

ゴルバチョフ氏は、ソ連共産党書記長、ソ連初代大統領として「ペレストロイカ(改革)」を行い、40年以上続いたアメリカとの「冷たい戦争」を終わらせた指導者です。

和やかに進んだ会見で、ゴルバチョフ氏は池田先生の理念への共感を次のように語りました。

「ペレストロイカの『新思考』も、池田会長の哲学の樹の一つの枝のようなものです」と。

2 枚目／会談の背景 (1枚目の絵の裏に貼る)

池田先生は、世界平和のため、多くの提言を発表したり、世界のリーダーと友情を結び、国と国との橋渡しもしてきました。このような池田先生の平和への行動に関心をもっていたゴルバチョフ氏は、以前から池田先生に会見を要請しており、3年越しで初会見が実現したのです。

日本の一部週刊誌は会見について、学会側がゴルバチョフ氏と会うために大金を投じた、などと悪意に満ちた根拠のない報道をしました。これに対し、通訳として会見を見守ってきたモスクワ大学のストリジャック氏は「会見の実現に尽力した者は、世界の安定(中略)のためにこの二人は会わなければならない、という信念に基づいていた。そこに金銭などが介入する余地は、まったくなかったことを断言しておきたい」ときっぱりと反論しています。

3 枚目／歴史的な訪日実現 (2枚目の絵の裏に貼る)

池田先生とゴルバチョフ氏の初会見当時、ソ連の最高指導者として初めての日本訪問への期待が高まっていますが、実現は困難な状況でした。このような中で行われた会見で、池田先生は「桜の咲くころか、秋のもみじの美しい季節に必ずおいでになっていただきたい」と語り、ゴルバチョフ氏は、「春に日本を訪れたい」と、公の場で初めて訪日を約束したのです。

この会談の様子は、テレビや新聞で大きく報じられました。そして、約束通り、翌1991年4月、ゴルバチョフ氏はソ連の最高指導者として初めて日本を訪問し、両国の友好の扉が大きく開かれたのです。

4枚目／**変わらぬ友情**（3枚目の絵の裏に貼る）

1991年、ソ連の崩壊とともに、ゴルバチョフ氏は大統領の座を追われました。手のひらを返すように、非難中傷を浴びせる人々もいるなか、池田先生はゴルバチョフ氏に「これからです。これからあなたの本当の人生が始まります」と渾身の励ましをおくりました。

また、創価大学を訪れたゴルバチョフ夫妻に池田先生は「ご夫妻の偉業を、永遠に残しゆくために」と、「ゴルバチョフ夫婦桜」の植樹を提案しました。

最愛のライサ夫人が亡くなったときも、悲しみにくれるゴルバチョフ氏に、池田先生は懸命に励ましをおくりつけました。

時代が変わり、立場が変わっても、ひとたび結んだゴルバチョフ氏との友情は変わらなかったのです。

5枚目／**対談集の発刊**（4枚目の絵の裏に貼る）

ゴルバチョフ氏と池田先生は幾度ももの出合いを重ねました。その対話の内容は、1996年、対談集『二十世紀の精神の教訓』として結実し、世界中の多くの人々に読まれています。

そして2008年には、池田先生とゴルバチョフ氏の新たな対談「新世紀の曙」が開始され、各界の注目を集めています。

対談集について、池田先生は『後世のために』語り残しておきたいのです」と語られ、ゴルバチョフ氏は「全力を尽くします。将来にかけて一緒にお仕事ができる本当に光栄です」と応じています。

6枚目／**真実の友好**（5枚目の絵の裏に貼る）

ゴルバチョフ氏は池田先生との数々の出合いを振り返り語っています。

「会長との出合いは、一回一回が“驚き”です。会長の情熱に、その生き方に、本当に感銘します。このような人物と友情を結ぶことができた運命に私は感謝したい」と。

池田先生は“真実の友好”について信念を綴っています。

「人とのかんけいを、その場限りのものと考えれば、自先の利害という尺度で人を押し量ることになりかねず、真実の友好は生まれません。しかし、過去世からの深い絆によって結ばれているとの認識に立つならば、人への接し方は異なり、人間関係はより深いものとなる」と。

池田先生は、相手の立場や状況に関わらず、一貫して友情を大切にしてきました。この友情は、時を経るごとに黄金の輝きを放っています。

決意など